

令和5年度 第3回田原市図書館協議会議事録（案）

日時：令和6年2月16日 午後2時～午後4時

場所：田原文化会館204会議室

出席者：協議会委員9名

（河合、本田、家禰、渡邊、一ツ田、内浦、小澤、北原、永田）
事務局3名（是住、朽名、宮嶋）

議事内容

- ・開会
- ・館長あいさつ
- ・協議
 - 1) 前回の議事録の確認について
 - 2) 令和5年度田原市図書館事業の取組結果について
 - ・第3回「たはら言の葉コンクール」の結果について
 - 3) 利用者アンケート等の実施について
- ・報告事項
 - ・田原市議会第4回定例会一般質問について
- ・その他

事務局：本日は、お忙しいところ、ご出席くださいます、ありがとうございます。内浦委員は遅れて出席との連絡をいただきました。ただいまの出席委員は8名です。過半数に達していますので、令和5年度第3回田原市図書館協議会は成立いたしました。これより開会いたします。では、開会にあたり館長から挨拶をお願いします。

館長：本日はお忙しいところ、図書館協議会へご出席いただき、ありがとうございます。前回の協議会で報告させていただいたとおり、現在、中央図書館は空調工事とLED化工事のために臨時休館をしまして、予約した本の受取窓口のみ設置している状況です。コロナ時も同様の対応を取っておりましたが、その時に比べると、利用は少ない印象です。渥美図書館、赤羽根図書館は通常通り開館しているので、そちらへ来館する利用者もいらっしゃるようです。この機会に、分館にも来館する市民が増えればと思います。

1月21日（日）には、NPO法人たはら広場さんの主催で、「たはら・図書館・未来 かぶシンポ」が開催されました。内浦さんがコーディネー

ターをしてくださって、設立 20 周年となる NPO たはら広場の歩みや、豊田高広前館長、そして私もパネリストとして参加させていただき、これまでの取組について、それからこれからの図書館について、みなさんと考える良いきっかけになったかと思います。

それでは、本日の協議会もどうぞよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。それでは議題に入ります。ここからは河合委員長に議事の進行をお願いします。

委員長：まず協議事項 1 「前回の議事録の確認について」事務局から説明をお願いします。

館長：議事録案は通知文に同封させていただきました。修正箇所や気になるところはありますか。

(特になし)

では、こちらの内容でご了承いただけたということで、図書館のホームページに掲載したいと思います。

委員長：続けて協議事項 2 の「令和 5 年度田原市図書館事業の取組結果について」事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：それでは質問や意見がありましたらお願いします。

委員：(言の葉コンクールの) 応募者は増えてきているのか。

館長：第 1 回目は公募ガイドという全国の応募したい方が見るサイトに掲載されたこともあり、全国から多くの応募があったが、選考も大変だった。なるべく田原市とその周辺の方々に応募していただきたいということから、その後は全国的なサイトには載せなくなり、今回くらいの応募数で落ち着いている(参考：応募数の推移 第 1 回 460 点、第 2 回 230 点、第 3 回 260 点、第 4 回 280 点)。
受賞された方の作品は館内やホームページに掲示をして、いきいき元気タイムで参加者と一緒に音読をするなど活用させていただいている。

委員長：それでは協議事項3の「利用者アンケート等の実施について」事務局から説明をお願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員長：それでは質問や意見がありましたらお願いします。

委員：大人用のアンケートには、性別が「男」「女」「回答しない」という選択項目になっているが、小学4年生のアンケートはともかく、中学2年生では「男」「女」の選択項目しかないのはLGBT的にどうなのか。男女共同参画懇話会の委員もやっているが、そこでも性的少数派について議論されている。思春期になると性的な違和感を持つ子どもも出てくるのではないか。

委員：以前勤めていた堺市の図書館では、ずいぶん前に利用者登録時の性別欄を無くした。当時はLGBTについてはそれほど話題になっていなかったが、その後、性的少数派に対する認識が進んできて、性別欄を無くしておいてよかったと思っている。性別については、回答しないという選択肢を入れておくか、もしくは質問項目として入れないかのどちらかではないか。

館長：調査する側としては、サービス分析対象の項目として性別データを取得したいので、回答しないという項目を加えたい。

委員：タブレットでの回答ということだが、学校では、ロイロノート（ロイロノート・スクール）は使われているのか。

委員長：ロイロノートを使っているのは、衣笠小学校と伊良湖岬小学校。ちょっと特殊な状況で導入した経緯がある。通常は自治体で契約して市内全校で使うのだが、他にもコラボノートとかいろんなサービスがある。

委員：ロイロノートとかを使うとアンケートを取る時などに活用できるのではないか。

館長：アンケートの回答収集はGoogleフォームを活用している。QRコードを児童・生徒へ配布して、QRコードを読み込んでGoogleフォームの

アンケート回答ページから回答ができる。Google フォームを利用するのは集計が楽なので。県が運営するアンケートを取るためのサイトを使うことも出来るが、アカウントを持たない会計年度任用職員に集計などをお願いすることもある。個人情報を取得する項目は無いので Google フォームを使用している。

委員：ロイロノートというのはどういうものか。

委員長：学習ツールであって特別なものではない。授業時に意見を付せんのようなものを書いて全員が見えるところに貼れたりする。黒板の端に教員が児童の意見を書いていたのと同様のようなものが、画面上で全員が早く見ることができる。それを見てまた意見を出してという使い方もできる。他にもいろんな機能がある。例えばタブレットを持って帰った時に、学校にいる教員からの連絡事項を伝えるとか、そのような機能がセットになっている。田原市内ではロイロノートを使ってない学校の方が多いが、他のツールを使っても同じようなことが出来る。生徒が使うデジタル形式のノートのようなもので、少しずつ普及してきている。

委員：最後の質問の「田原市のことが好きですか」というのは何か意図があるのか。

館長：地域への愛着度を測定する項目になる。教育部全体としてふるさと教育取り組み指針に基づいたふるさと教育に力を入れている。その取り組みの成果を測るためにも質問項目として入れたいと考えている。現在、国の交付金を使った事業の評価指標として、ウェルビーイングや地域への信頼度や愛着度を測る項目が入ってきている。現在獲得を目指している交付金の評価指標としても使いたいと考えていて、この質問項目を入れている。

委員：地域の特徴がそれぞれあるので、田原市と言うと抵抗感を持つ人が大人はいる。子どもは大丈夫なのかもしれないが。

館長：「田原市のことが」ではなく、「住んでいる地域のことが」にした方が良いかもしれない。

委員：かつて幸福度調査があつて、唐突な感じがした。

館長：幸福度調査は、市が数年毎にやっている市民意識調査で現在も項目として入っている。

委員長：アンケートについては他によろしいでしょうか。それでは、続いて報告事項になります。「田原市議会第4回定例会一般質問について」お願いします。

館長：(配布資料に基づいて説明)

委員：私はこの時の議会の傍聴をしていた。赤羽根町の動きを説明できたらと思う。これまで市の計画案が出来ると、地域のコミュニティだけに説明をして進めていく。住民には何も知らされない。今回、その段階で新聞に掲載された。それを見たので、これはいけない、また従来型の、住民が口を挟む余地のないまま進められてしまうと危惧した。結果ありきで進めていくのではなくて住民と行政との合意形成をどこで図っていくのか、新しいやり方で進めるべきだと考えて、区長や議員に意見を伝えたところだ。

館長：市側としては、手続きに従って進めてきたわけですが、今回の新聞報道があって、様々な方からご意見をいただいている。各コミュニティが意見を集約して提出するという事なので、今それを待っている状況。

委員：今後、市民が活用する施設になるわけだから、ワークショップなど、何らかの市民参加型で進めていく方向が良いのではないかと。中高生も含めて意見を取り入れて行いくのが良い。

委員長：それでは、「その他」について、何かありますか。

委員：(配布資料について説明)

委員長：それでは以上で、本日の議事は全て終了しました。

ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、令和5年度第3回田原市図書館協議会を閉会とさせていただきます。